

第16回放射線災害時のスクリーニング作業の実際について（実践講習会）参加記

横須賀共済病院

田中悠葵

12月18日（土）に第16回放射線災害時のスクリーニング作業の実際について（実践講習会）に参加しました。

前半1部の実践演習では「サーベイメータの使用方法&実践」と「セグメント法について&実践」の2つを実践演習しました。

「サーベイメータの使用方法&実践」では、サーベイメータの種類や具体的な使用方法などを講義していただき、様々なサーベイメータを実際に触って使用することができました。普段の業務ではあまり触ることのないサーベイメータの使用方法を確認することができ、とても実践的な演習だったと感じました。

「セグメント法について&実践」では、横須賀三浦原子力災害特別派遣チーム（NAS チーム）が提唱した「セグメント法」について学び、ペアを組んでセグメント法を試しました。（写真1）

スクリーニングでは短時間で正確かつ効率的に行うために、サーベイメータの動かす速さを一定にして、さらに手部や足の裏などのポイントを逃さずにサーベイする必要がある、まさにセグメント法のような決まった手順がないと難しいと感じました。全身を6つのセグメントに分割し、3分間で一筆書きの要領でサーベイする「セグメント法」は、取りこぼしをなくし、身体的負担を軽減し、操作・速度を安定させるために必要な手法だと実感しました。



写真1：セグメント法の実習の様子

後半2部では「東日本大震災における派遣活動から12年～振り返り～」という題で吉田篤史先生にご講演いただきました。（写真2）

吉田先生方やNASチームが、東日本大震災の際にスクリーニング作業のために被災地に派遣されて、一日数百人をスクリーニングしたときに感じた改善点やセグメント法の重要性などをお話いただきました。お話の中でどういった場合にタイベックスーツを着る必要があるのか、サーベイで高い値が出た場合に不安になっている被災者にどう対応するか、といった日常業務では遭遇しない難しい場面をお話いただき、自分だったらどうすればいいのか考えながら聞き入っていました。



写真2：講義の様子

またその中で、「我々診療放射線技師は市民にとって最も身近な放射線の専門家」という吉田先生のお言葉に、はっとさせられました。東日本大震災か

ら気づけば12年経ち、放射線災害は人々の記憶からだんだんと薄れつつあります。しかし診療放射線技師である我々は、あの災害を忘れず、未来に向けて対策する義務があると感じました。

この実践講習会を通して、放射線災害が起こった時に自分がやるべきことを明確にでき、またスクリーニング作業への向き合い方を改めることができました。今回学んだサーベイメータの使用方法和セグメント法を復習し、今後もこのような機会があれば参加して、いざというときに自信をもって行動できるようにしたいと思います。